

# 生きて使える漢字習得法 「楽しい」を武器にしよう！

埼玉県上尾市立大石南小学校教諭 糸井 千秋

## 『くりかえし漢字ドリル』は 子どもの助っ人

現在、小学校課程に配当されている漢字は  
一〇〇六字です。この漢字が、多くの子ども  
にとって大きな壁となってしまうと、  
さらに、教える側の教師にとっても、重荷・  
負担となりがちなものです。そのため、漢字  
学習には数多くの教材があり、その取り扱い  
方もいろいろと工夫されているようです。特  
に漢字ノートの指導には、多くの先生方が様々  
な方法をとられています。

私は、漢字学習については『くりかえし漢  
字ドリル』と市販の漢字用ノートを長く活用  
してきました。漢字を、何のために、どのよ  
うに、何を目的として学習させていくかを考え、  
どうすればより効果的・効率的に楽しく学習

させられるか考えることで、私が終局的に落  
ち着いた方法が、これからご紹介する方法で

す。①「漢字ノート作り」で漢字を生活に活  
かす力を養成し、②「ミニ漢字テスト」で学  
習の成果を確かめ、意欲喚起を図る―この時  
に『くりかえし漢字ドリル』が、大いに子ど  
もの助っ人になってくれるのです。

なお、このような方法で学習させる主旨と  
ねらいについて、年度はじめの懇談会などで  
保護者にも説明し、理解と協力を求めておく  
と、さらに年間の漢字学習が進めやすく、子  
どもにとっても効果的な学習となります。

### 1. 「漢字ノート作り」

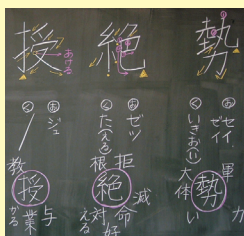
新出漢字を習得させるために、私は児童に  
『くりかえし漢字ドリル』を併用した「漢字  
ノート作り」を、3つのステップに分けてさ

せています。【ステップ1】まず、新出漢字  
を正しく把握させて基本をおさえる。【ステッ

プ2】もう一度、確認の漢字練習をさせる。  
【ステップ3】最後に、熟語集めと文作りで  
ノートを完成させて、漢字の使い方を覚えさ  
せる。私の場合、ここまでの「漢字ノート作  
り」を、各学期はじめの1ヶ月〜1ヶ月半を  
目標に終わらせています。

### 「ステップ1：新出漢字を正しく把握させる」 教室で

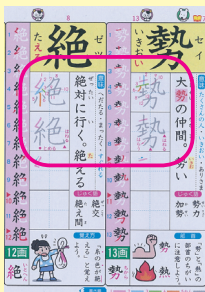
- ① 漢字の字形・筆順・読  
み方・意味・使い方な  
どを黒板に書き、解  
説を加える。（マス  
黒板を使ってもよい）



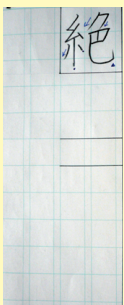
②『くりかえし漢字ドリル』のなぞりマスを

使って、2マス「なぞり練習」をさせる。

※ここでは、字形・筆順・字のバランス等を、手と頭に刷り込みます。



③字形・筆順・字のバランスなどが正しく書けるようになったら、あらかじめラインを引かせておいた市販のノートに、大きく漢字を書かせる。

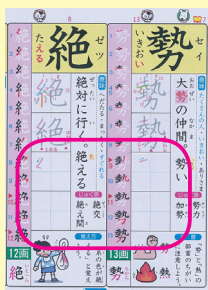


▲ノートに書字まかせた漢字は確認しやす。

1時間で7〜9字の新出漢字を扱います。中・高学年の場合、一通り説明をしてから、②のなぞり練習、③の漢字ノートに取り組みます。ここまでを授業中に行い、新出漢字が正しく書けているか、ノートを確認します。間違っていた場合はその場で直させます。最初にしっかり覚えさせることは、どんな学習でも大事なことです。ですから、ここでの教師の確認は大きな意味があります。

「ステップ2…新出漢字をドリル練習によって再確認」〜教室で

○漢字ドリルの残り2つの空きマスに、漢字練習をさせる。



私のクラスでは、黒板で習ったところまでは、順次練習してもよいことになっています。

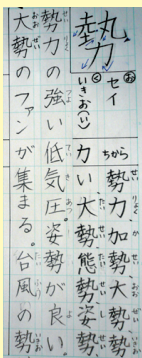
多くの場合、朝自習やちょっと空いてしまう時間などにやらせています。ちょっと空いてしまつ時間とは、例えば、体位測定などの待ち時間、研究授業参観などで教室を空ける時、他の課題や作業が終わつた残りの時間などです。時間をうまくやりくりする工夫で、ほとんどすべての子どもは学校にいる間に終えることができます。それでも時間のない場合は、宿題にします。

ステップとステップ2は一度にやらせず、少し間を空けることで、くりかえしの効果が高まります。一度に10回書くよりも、5回ずつ二度書くほうが成果は出ます。つまり「くり

かえし」です。

「ステップ3…必要事項をまとめながら覚えさせる」〜家庭学習で

○市販のノートに ①音読み・訓読み ②部首・部首名 ③熟語 ④その漢字を使った文を書かせ、「漢字ノート」を完成させる。



この練習は、一日に2〜3字ずつ、ほとんど毎日宿題に出します。

筆順や「はらう」とめる「はねる」などについては【ステップ】で確認していますが、そこですべて覚えられるわけではありません。そこで「くりかえし漢字ドリル」に活躍してもらおうのです。家庭学習でも、ドリルの筆順番号を確認しながら学習させます。難しいところには、ステップ③で書いたノートの漢字に筆順番号を記入させます。「はらう」とめる「はねる」などのマークも、ドリルを見て再度確認しながら、家庭学習するように促します。音読み・訓読みや部首・部首名、熟

語などは『くりかえし漢字ドリル』に書いてあるので活用させます。それでも足りない情報を得るために、子どもには必ず国語辞典や漢字辞典を使うようにさせています。そうすることで、苦手と言われている「辞書引き」にも必然的に慣れることができるわけです。

また、宿題に出した漢字はその日のうちに添削して子どもに返します。やったことをすぐ評価されるので、自分の取り組み方に自信を持てますし、間違った場合は記憶を修正しやすいようです。その場で間違い直しもさせます。間違い直しもその時・その場のほうが習熟率もよいのです。この期間、添削するほうもきついのですが踏ん張りどころです。

## 2. 「ミニ漢字テスト」で成果を確認

「漢字ノート作り」がひと通り終わったら漢字ドリルを使って、文をまるごとくりかえし書く練習をさせます。その後、成果を確認するために「ミニ漢字テスト」を実施します。

『ステップ4：くりかえし練習後、ミニ漢字テスト』で意欲と自信倍増へ！

『くりかえし漢字ドリル』の「読む」のページ

を見ながら、文をまるごと書く練習→「書く」のページで漢字を確認→間違えた箇所をさらに重点的に練習→「ミニ漢字テスト」

練習させるときは、「読む」のページを見ながら文をまるごと書かせます。あえて「読む」

のページで書く練習をさせるのは、ここで正しい漢字を見て正しく練習させるためです。つまり漢字を間違えたままノートに何回も練習させないためです。「読む」のページで何回か練習したら、「書く」のページで試してみます。書けなかったり間違えたりした字があったら、その字が苦手、覚えていないということになります。そこで、その漢字ももう一度「読む」のページで確認させるとともに、印を付けさせて印の付いた番号は特に練習するよう促します。子どもは自分のノートに何回も練習します。時には、

習します。時には、



▼「書く」のページ

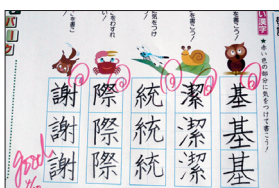
▲「読む」のページ

家庭でもチェックしてもらいます。

漢字をコンパクトな文章で練習できるのは、『くりかえし漢字ドリル』の魅力です。また、『まちがえやすい漢字』は『くりかえし漢字ドリル』にピックアップされています。このページこそ大切に扱い、丁寧に丸付けをしています。この練習も、朝自習の時間・ちよつと空いた時間を使うほか、ドリルのページを指定して宿題に出します。このような方法で学習させていけば、必然的にドリルをくりかえして活用できてしまうのです。

練習の後には、「ミニ漢字テスト」にチャレンジさせます。「ミニ漢字テスト」は、

新出漢字の習熟度の確認や子どもへの励まし、意欲喚起の意味を込めて実施します。『くりかえし漢字ドリル』の「書く」のページや、時にはドリルの「熟語」欄から



▲「まちがえやすい漢字」は、特に丁寧にチェックします。



▲「ドリル1」「ドリル2」は、各7～10問です。

も出題します。

なお、低・中学年では「ドリル」「ドリル」を分けて練習させ、テストも分けて実施します。高学年でも実態と内容に応じて使い分けします。

### 生きて使える漢字学習のために

私が子どもたちに熟語で覚えさせ、さらに文章の中で練習させることにごだわるのには、理由があります。実は子どもは、漢字だけ覚えても、「使い方がわからない」「応用が利かない」といった覚え方になっていることが多いのです。例えば、「大勢」は書けるけれど「勢力」と出題されるとわからなくなるのです。そこで、多くの熟語や使い方を「漢字ノート作り」で覚えてもらいたいというねらいがあるのです。漢字は熟語や文章の中で覚えるほうがより効果的に身に付き、生きた漢字学習となります。漢字テストのために、その漢字だけを羅列させた練習は、字形を正しく習う・覚える以外の効果は期待できません。**漢字学習も、実際の生活の中で使えるようになってこそ本当の習得だ**と思います。

### 漢字の学習を先行して進める効果

前述の通り、私はこの10年程の間、ステップ1〜3の「漢字ノート作り」を、各学期の最初の1ヶ月程度で終わらせています。以前は、「子どもにとって、多くなると負担では…」と考えがちでした。しかし実践の中でわかったことは、「今日は漢字」と決めて集中的に学習させたほうがよく覚えるということです。さらに「漢字ノート作り」を早めに終えることで、ステップ4でのくりかえし学習に時間的なゆとりが持てるのです。子どもも精神的なゆとりを持って学習できます。

若い頃は、学期末に新出漢字の残り数を数えてあわてたものです。しかし、この方法をとってからは、音読の宿題で子どもに「先生、この漢字は習っていません」と言われることも、期末テストの前に「漢字練習の時間がちょっと足りないかしら」などと心配することもなくなりました。

このような漢字学習のやり方に慣れてしまえば、子どものほかからも「先生、あと少しだからやりたいなあ」などと乗ってきて、楽しく学習しています。楽しんで、は意欲です。

『くりかえし漢字ドリル』を友友にして、意欲を持続させるために、色々なエッセンスを常に加え続けることも、教師として重要なことだと思います。



▲「漢字ノート」は丁寧にチェックするとともに、必ず励ましのコメントを書く、シールを貼るなどの工夫をしています。

### 検証より

本校では平成20年の2月に「国語学習に関する意識調査」を実施しました。その結果、本学級の子どものうちの84%が国語が好きと答え、その理由として「漢字を書いたり、読んだりできるから」と答えた子どもは81%、「漢字学習が楽しい」と答えた子どもは86%という、うれしい結果が得られました。

まずは、好きだ楽しいといった気持ちで意欲を育むことが、漢字習得、さらには学習全般において何卒の武器になるでしょう。(22年度までの教材を使った実践例です。)